

●最新号の情報はこちらから！

・Web サイト

<http://www.keio-up.co.jp/kyouikutoigaku/>

最新号の紹介には、立ち読みコーナーがあります。バックナンバーも網羅。



・Twitter

<https://twitter.com/kyouikutoigaku>

最新情報をツイートしています。フォローをお待ちしています！



教育と医学 子どもの育ちを教育・心理・医学から探る

子どもの心とからだを考え・支える人のために

教育と医学



税込価格：740円 在庫あり

定期購読：年4,100円（税・送料込）

在庫について

配送料について

この号を買う

定期購読する

お知らせ リニューアルのお知らせ

「教育と医学」が2019年6月27日発売号からリニューアルします。それに伴う2019年の刊行予定、今後の刊行予定についてご案内します。

子どもの心とからだを考え・支える人のために

教育と医学



フォロー

「教育と医学」

@kyouikutoigaku

「教育と医学」は、子どもの心とからだを考え・支える人のための雑誌です。教育学、心理学、医学、社会学の専門家や現場の方々が子どもに関わる問題についてわかりやすく解説します。6月27日発売の「7・8月号」からリニューアルします！発行：慶應義塾大学出版会

・メールマガジン

<http://www.keio-up.co.jp/kmlmaga.html>

「教育と医学」の最新号の紹介や、関連書籍などの情報を提供しています。ぜひ、ご登録を！



●お得な定期購読のお申込み

定価：740円（本体価格 648円）

定期購読料（1年間6巻定期）：4,100円（税・送料込）

※2019年10月に消費税増税が実施された場合、「定価」が変更になる予定です。
「定期購読料」につきましても、2019年10月1日以降のお申し込みの場合は変更になる予定です。

詳細はこちらから

<http://www.keio-up.co.jp/kyouikutoigaku/teiki.php>



●お問い合わせ

慶應義塾大学出版会

Tel: 03-3451-3584 Fax: 03-3451-3122

子どもの心とからだを考え・支える人のために

教育と医学

奇数月1日（年6回）発行（偶数月27日発売）



「教育と医学」は、子どもの心とからだを考え・支える人のための雑誌です。教育学、心理学、医学、社会学の専門家や現場の方々が子どもに関わる問題についてわかりやすく解説します。

2019年6月27日
リニューアル！



編集：教育と医学の会

発行：慶應義塾大学出版会

【特集】

教育学、心理学、医学、社会学といった多角的な視点から、特集を組んで解説します。子どもや学校の抱える問題をどう捉え、対応していけばよいのか。教育・福祉現場、家庭で役立つ情報を提供します。新聞などでは得られない、掘り下げた情報を提供します。毎号、以下の3つの分野から1つを特集します。

●発達障害、特別支援教育

教育、医学、心理の視点から、臨床家・実践家が最新の知見、学校現場で役立つ情報を提供します。

●子どもの心

いじめ、不登校などにも関連する、子どもの発達と心をめぐるさまざまな問題、その対策と支援を考えます。

●教育方法

教授法、学級・学校経営、教員の働き方、コミュニケーションなど、喫緊の課題を取り上げます。

【主な連載】

●教育のリアル——現場の声とエビデンスを探る

内田 良 (名古屋大学大学院教育発達科学研究科准教授)

組体操の危険性やブラック校則などで注目の教育社会学者による新連載。科学的なエビデンスを元に、課題解決への道を探るアプローチはいかにして可能か。学校、そして教育の「現場」そのものを問い直していきます。

●再考「発達障害」—子どものこころの診療室から—

篠山大明 (信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部医師)

教育現場や保護者には、まだまだ発達障害についての誤解や偏見があります。日々診療の最前線に立っている著者が、医学的根拠や教育現場での対応方法など、わかりやすく解説します。

●希望をつくる教育デザイン

南谷和範 (大学入試センター研究開発部准教授)

障害の有無にかかわらず、能力を最大限発揮できるためには、どのような環境やテクノロジーが必要なのか。気鋭の教育工学者が、自身の視覚障害者としての体験もまじえながら、ひとの可能性を育むためのヒントを提供します。

●久里浜だより (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所)

●バリアフリー絵本の世界 (バリアフリー絵本研究会ほか)

●五反田家の子どもたち (五反田ミカン) —— 4コママンガ



教育と医学の会とは

1953 (昭和 28) 年に九州大学の医学部と教育学部の教員が、子どもの健全な発達には教育と医学の連携が必要であるという理念のもとに結成されました。現在は、九州大学や福岡大学など福岡を中心とした有志教員 (心理学、教育学、小児科学、精神医学、看護学など) が集まり編集にあたっています。

●近年の号で取り上げた
特集・トピック (一部)



●発達障害・特別支援教育

思春期以降の ADHD / 家庭における発達障害の理解と支援 / 移行期支援 / 進路選択 / 見逃されやすい発達障害 / 合理的配慮とは

●児童精神医学・小児医学

発達障害に対する薬の効用と限界 / 児童虐待 / これからの学校健診 / 小児慢性疲労症候群 / 子どもの胃腸と免疫力 / アレルギ / 子どもの睡眠

●発達心理・児童心理

不登校 / ひきこもり / アタッチメント / 反抗期再考 / 親子のレジリエンス / 親子のコミュニケーション / 今の子どもの対人関係

●学校・学級経営

教師のストレス / 教師のコミュニケーション能力 / 学級崩壊にどう対応するか / 部活動のあり方 / PTA の新しいかたち

●教育行政・制度

フリースクール / アクティブ・ラーニング / プログラミング教育 / 性教育 / 学校給食

●社会

子どもの貧困 / 教育無償化のねらい / 子どもの幸福度・幸福感 / 子育て支援 / AI 社会の教育 / 在日外国人の子どもの学校生活

田中康雄

(精神科医、こころとそだちのクリニックむすびめ)

僕が知る限り、本誌は日々をどう送るか、もっといえば如何に生きるかという姿勢に対して、穏やかに、丁寧に、いたづらに煽ることなきメッセージと情報を提供し続ける役割を担っている。これは、簡単なことではない。しかも教育現場と医療現場という二つの異なる位相を重ね合わせた体裁を見事に整わせていたという点でも異彩を放っている。

教育と医学が混じり合うなかで子どもたちは成長し続けている。同時に、その混じり合いのなかで仕事をしている僕にとって、本誌はある意味で僕を後ろで支えてくれている。

(2019年6月)

【読者からの声】

- ・毎号タイムリーな特集で、様々な知識、情報を得ることができます。(教育職)
- ・小学校で校内回覧しています。じっくり読んでいる者が散見されます。(教育職)
- ・校内研修のテキストに使っています。貴重な情報源です。(教育職)
- ・大学の講義で随分参照させていただいています。助かっています。(教育職)
- ・他誌では得られない医療関係の情報や専門的な特集などが大変参考になります。(教育職)
- ・とても真摯に「教育」に医学的立場から向き合っていて、大好きです。そして、わかりやすい! (心理職)

- ・教育現場に即したタイムリーなテーマが掲載されており、購読することで日々の活動の振り返りになっています。(心理職)
- ・各号の特集は私にとっては大変役に立ちます。人に関わる仕事のせいかな、なるほどそういうことかと思えることに出会えますし、どうしたものかと考えるときに手がかりとすることができて助かっています。(福祉・心理職)
- ・子どものこころと向き合う時、大きなヒントを与えてくれます。(医療職)
- ・いつも「あ! そういう角度の切り口があるんだなあ」とか「こうやって、子どものことを考えてくれている大人がいるんだなあ」と楽しく拝読しています。(保護者)